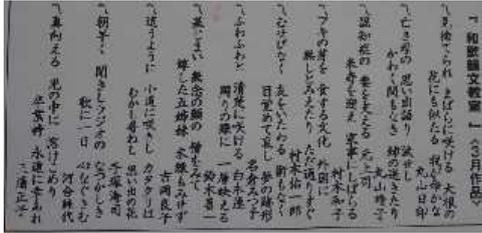


気軽に立ち寄れる寺や教会が、あちこちあるといい



DSC03317 (1)



DSC03318

まちなかにでかけた時、おたずねする寺。そんなふう気軽に立ち寄れる寺、正晨寺(しょうしんじ 浜松市中区神田町)を訪ねた。日蓮宗の流れをくむ本門佛立宗のお寺である。

本堂はいつもスッキリしている。どなたでも、本堂に座り、心ゆくまでお題目を唱えることができる。エネルギー充電と瞑想の場として使ってもらってもできる。

浜松市内の「神社・寺・教会カフェ」(浜松市の後援／浜松市文化振興財団助成事業)に連続参加している。第一回目のときにご夫婦で訪ねた方があった。

その後、奥様が脳こうそくで倒れた。奥様の世話をされている夫は、たいへんだ。つらくて悲しい。そんな時、泣いていたい場がほしいと思った。「そうだ、あのお寺に行ってみよう」。そして、ひとり本堂に参拝しては、泣いていたという。一ヶ月間、休まずに通われたという。そういうお寺だ。

副住職とパーマカルチャーなどの話もし、住職とは、万葉集や古今集(住職は和歌が専門)、そして『法華経』などについて語り合うのが楽しめた。仏教であれ短歌であれ、俳句であれ、どんなに話が飛躍しても、とうとう語り合えるお寺は、稀有なことだ。こうして、気軽に立ち寄っておしゃべりできる寺や教会が増えていくのは、ありがたい。

毎月25日には、住職による俳句、短歌の講座(「和歌韻文教室」無料)がある。作品を持参すると、即座に見事に添削してくれる。毎月の、生徒の作品がすばらしい。ひとつひとつの和歌に、人生のドラマがある。

住職の和歌

—見捨てられ まばらに咲ける 大根の
花にも似たる 我が命かな—

その他、参加者の歌をいくつか

—亡き母の 思い出語り 涙せし
かわく間もなき 姉の逝きたり

—認知症の 妻を支える 元上司
米寿を迎え 家事にしばらる

—墓しまい 無念の顔の 僧を見て
嫁した五姉妹 未練もみせず

〈問い合わせ先〉正晨寺ホームページ
<http://www.honmon-butstryushu.or.jp/shoshinji4>

浜松北部生きがい特派員 池谷 啓